



岐阜大学

岐大の いぶき 2012 Spring-Summer No.23

【特集】

世界とつながる岐阜大学

国際性を身につけよう!



PICK UP!!

岐阜大学山岳部
未踏峰登頂。

【学生生活】

大学生活を
ふりかえって

第23回 岐阜シンポジウム

「宇宙の歴史を読み解く」を開催しました

平成23年11月5日(土)

地球や社会全体が抱える環境・バイオ・情報・教育などの21世紀の重要テーマについて、岐阜大学の研究成果を社会に広く発信する「岐阜シンポジウム」。

23回目の今回は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の藤村彰夫参与をお招きして特別講演を開催。「『はやぶさ』のカプセルにはいったい何があったのか」と題して、小惑星「イトカワ」から帰還したはやぶさにまつわる貴重なエピソードをお話いただきました。イトカワヘタッチダウンした時のアクシデントやカプセルの中

身が空だった話なども披露。「目視できるものが何もなくカプセルから、2カ月以上かかって人工物とは違う粒子を見つけた時は、本当にホッとした」と、当時の苦勞を紹介されました。

教育学部の川上紳一教授と工学部の宮坂武志准教授も、地球の歴史や「はやぶさ」に使われたイオンエンジンのしくみについて講演を行いました。質疑応答では、小学生から70代と幅広い世代の方から質問が相次ぎ、とても有意義なシンポジウムとなりました。



第10回 岐阜大学学生企業展を開催しました

平成23年12月10日(土)・11日(日)

学生が企画・運営する「学生企業展」が記念すべき10回目を迎え、今年度は2日間にわたり開催。10日は約600名、11日は約500名の学生が来場し、参加企業156社の中からお目当てのブースを訪問し説明を受けました。

東日本大震災の影響や近年の不況により、学生の就職活動や企業の採用活動の状況は依然として厳しい状況です。そんな中でも学生たちの就職意識は高く、各企業ブースで真剣に説明を受ける姿が多く見られました。東海地方を拠点に活躍している企業が

多く、地元での就職志向が強い岐阜大学生にとって大変好評でした。「岐阜大学生のみを対象なので少人数で話を聞くことができた」、「就職活動に対する不安や疑問も解消できた」と参加者たち。学生のみで企画・運営する企業展は全国的にも大変めずらしく、実行委員会の学生たちも活動を通して多くの企業の方と接触することができ、自身の就職活動の充実にもつながっています。

報告：岐阜大学学生企業展実行委員長 山崎友梨(当時3年)



第3回 DREAM PROJECT 表彰式

平成23年11月6日(日)

日頃思い描いている夢や希望を実現するための「環境・健康」をテーマとしたアイデアを募集する「DREAM PROJECT」の表彰式が行われました。最優秀賞に工学部生命工学科の西岡真弘さん(当時4年)が選ばれ、岡野幸雄理事から表彰状と副賞が、株式会社コンティグ・アイの山田博子取締役から記念品が手渡されました。西岡さんのアイデアは「アスファルトの熱を利用した発電法」。「素晴らしい賞をいただき事ができ、とてもうれしく思っています。次回はぜひ皆さんも応募して下さい」と喜びを語りました。



災害時等の支援協力に関する協定を締結

平成23年11月24日(木)

災害時の被災者等支援に協力することを目的に、県内の大学等高等教育機関(26機関)とともに岐阜県と協定を締結しました。

大規模災害発生時に体育館やグラウンドを提供することなどを取り決めたこの協定。古田肇岐阜県知事は「効果的できめ細かな支援体制の構築に努めたい」と述べ、森秀樹学長は「県民のために支援協力体制をスタートでき、大変うれしい」と話しました。締結式には、勝野眞吾岐阜県立大学学長、大西健夫中京学院大学学長、藤井徳行岐阜聖徳学園大学短期大学部学長も出席されました。



03-05 Topics 岐阜大学のとりくみ Nov.2011→Mar.2012

06-15 【特集】 世界とつながる岐阜大学 国際性を身につけよう!

01 留学のハードルは高くない。
世界は想像以上に身近にある。

02 留学生が見て、ふれて、
感じた日本。

03 岐阜大学は
学内外の異文化交流を推進します。

04 総合文化海外実習
実学を通じて

教育学部英語教育講座
異 徹 准教授

05 マングローブ林に眠る怪物

応用生物科学部
小見山 章 教授(森林生態学)

16-19 PICK UP!! 岐阜大学山岳部 未踏峰登頂。

Interview 岐阜大学名誉教授
藤井 洋
工学部3年
伊藤 翼
応用生物科学部3年
森 脩祐

20-21 学生生活 大学生活をふりかえって

22 岐阜大学基金の状況報告

23 お知らせ

巻末 公開講座のご案内

人間には、「志に向かっていくために最善の選択をする能力」があると信じています。熱い志を持つためには、素晴らしい師と出会うことが大切です。特に、若者には必要不可欠です。師は、大学の教室の中だけにいるとは限りません。若者のまわりの自然や文化など、森羅万象が素晴らしい師となります。異なる文化・自然環境に無垢の自分をさらし、自分の将来を考える、留学とはそういった素晴らしい機会です。岐阜大学は、若者を海外に送り出すために最大限の支援をします。また、海外からの留学生と日本人学生の交流の場を多種多様に企画運営します。岐阜大学は、若者にとって、世界への扉です。

(編集長)



PLACE 岐阜大学図書館前
MODEL サムセイ・アリフ さん(上段左から)
ファム・トゥ・ハー さん
チョウ・ブンサイ さん
ズバイル さん
箕浦 みさき さん(下段左から)
瓜野 早紀 さん
徳田 隆之 さん
国枝 秀祐 さん

平成23年度 学位記授与式を行いました

平成24年3月25日(日)

長良川国際会議場において平成23年度学位記授与式を行い、学部学生1,283人、大学院学生582人が卒業・修了しました。卒業・修了生に向け、森学長は「夢、志を持ち続けること、どんな環境でも生き抜くたくましさを持つこと、地道な努力を怠らないこと」と言葉を贈りました。卒業生代表の応用生物科学部豊吉優希さんと修了生代表の同研究科山内恒生さんが「人のため、社会のために何ができるかを問いながら行動していきたい」「逆境に屈せず、力強く明るく、一歩ずつ進んでいきたい」と決意を語りました。



第63回 岐大祭 テーマは「パレット」

平成23年11月3日(木・祝)～6日(日)

「岐大祭」は、学生の正課研究や学術文化活動及び課外活動の祭典です。取り組みの成果を学内外に発表し、より発展させる機会を作る場として、毎年学生が自主的に企画・運営をしています。

人と人との交流が絵画のパレットに似ているのでは?という意見から、今年はテーマを「パレット」に決定。当日はゼミやサークル、各有志たちが研究発表や模擬店を行い、お笑い芸人による屋外ライブなど趣向を凝らしたイベントも行われました。たくさんの方々にご来場いただき、ありがとうございました。



秋の叙勲 受章者を発表

平成23年11月3日(木・祝)

平成23年秋の叙勲受章者が発表されました。叙勲は、国家または公共に対して功労のある人や社会の各分野において優れた行いのある人を表彰する栄典の一つで、春と秋に実施されています。本学関係の受章者は、次の方々です。

瑞宝重光章(教育研究功労)

黒木 登志夫 岐阜大学名誉教授(前岐阜大学長)

瑞宝中綬章(教育研究功労)

有馬 泉 岐阜大学名誉教授(元岐阜大学工学部教授)

水崎 節文 岐阜大学名誉教授(元岐阜大学教養部教授)

中部学院大学・中部学院大学短期大学部との連携協定を締結

平成24年2月10日(金)

応用生物科学部が中部学院大学・中部学院大学短期大学部と連携協定を結びました。平成22年度から中部学院大学短期大学部幼児教育科学生の農業体験学習や技術指導、両大学教員による農業と福祉の境界領域での共同研究を行っており、教育研究分野での交流・共同事業に取り組んでいます。今後は、両大学の教育研究の向上・充実を図るとともに、福祉系大学である中部学院大学短期大学部の協力を得て、障がい者教育に大きく寄与し、社会福祉への貢献を一層推進していきます。



男女共同参画推進シンポジウムを開催

平成23年12月7日(水)

12月7日(水)に開催した「男女共同参画推進シンポジウム『男女共に学びやすく働きやすい大学をめざして』」に、学内外から約180名の方々にご参加いただきました。基調講演では、内閣府男女共同参画会議専門委員の渥美由喜氏が「男性にとってのワーク・ライフ・バランス 男女共同参画」と題して講演。パネルディスカッションでは、林正子男女共同参画推進室長をコーディネーターとし、渥美氏、村瀬忍教育学部教授、大屋賢司応用生物科学部准教授、元平佳作人事労務課長が討論を繰り広げました。



第31回 岐阜大学フォーラムを開催しました

平成23年11月2日(水)

本学で定期的に行っている一流の研究者による講演会。11月2日(水)に、「第31回岐阜大学フォーラム『清流長良川と黒い津波—作家による水環境論—』」を開催。岐阜市出身の作家 松田悠八さんが、生まれ育った「清流長良川」の風景や東日本大震災で東北地方を襲った「黒い津波」など、水にまつわるエピソードを紹介しました。また、自作の俳句「鶏鳴といふ奇跡あり水見舞」を読み上げ、「鶏が鳴くという何でもない日常が、奇跡であると感じられるかどうか問われている」と語りました。



課外活動に対する理事表彰式を実施しました

平成24年3月7日(水)

本学では、学生の課外活動の健全な育成と活性化を図るため、課外活動において優秀な成績等をあげた団体又は個人について表彰を行っています。3月7日(水)に12団体と個人26名の表彰者に、表彰状と副賞が授与されました。岡野幸雄教学担当理事は「皆さんの活躍を大学としてもうれしく思っています。今後も更なる活躍を期待しています」と挨拶。受賞者を代表して、陸上競技部の山本紗綾さん(教育学部3年)は、「学業に加え、競技成績を伸ばすよう一層努力したい」と抱負を述べました。

環境マネジメントシステム(ISO14001) 認証範囲が拡大

平成24年1月10日(火)

岐阜大学では、平成21年に「環境ユニバーシティ宣言」を行い、環境に配慮した大学づくりに取り組んでいます。その一環として、環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証範囲を順次拡大しています。今回、認証の継続と環境方針を達成するための活動が認められた教育学部、附属小学校、附属中学校への範囲拡大の登録が完了。1月10日(火)に審査登録の授与式が行われました。林正子副学長は「より一層の環境対策を進め、環境教育・研究の推進に取り組んでいきたい」と話しました。

特別支援学校生の就労支援に関する覚書を締結

平成23年11月1日(火)

応用生物科学部は、岐阜県教育委員会との間で特別支援学校生の就労支援などに連携協力する覚書を締結しました。同学部附属岐阜フィールド科学教育研究センターを活用し、障がいのある生徒の自立と社会参加や共生・協働社会の実現に関して実践的な連携協力を行うことが目的。金丸義敬学部長は「この地域貢献がよりよい方向に向かうよう努力していく」、松川禮子教育長は「特別支援学校生は高校生を中心に毎年増加しているため、この連携は職業教育の充実に大変心強い」と話しました。

医薬品医療機器総合機構と協力協定を締結

平成24年1月11日(水)

独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)との間で、教育研究に関する協力協定を締結しました。大学院連合創薬医療情報研究科の学生がPMDAの職員による授業を履修したり、PMDAで実務を行いながら研究指導を受けることが可能になります。近藤達也PMDA理事長は「医療機器分野で国内の大学との協定は初。産業界が安全な医療機器を開発する原動力としたい」と述べ、森秀樹学長は「医療機器の研究開発は国家的なプロジェクト。優秀な人材を輩出し社会貢献していきたい」と抱負を語りました。

01

留学ハードルは高くない。世界は想像以上に身近にある。

岐阜大学は、多彩な留学プログラムと支援体制を整え、留学をサポートしています。この制度を利用した留学経験者に、「留学で得たものとは？」などについて語っていただきました。



地域科学部地域文化学科4年
箕浦 みさき さん(ドイツ・エルフルト大学)



小学校教諭・
教育学部英語教育講座 平成23年3月卒業
国枝 秀祐 さん(アメリカ・ウエストバージニア大学)



大学院地域科学研究科地域文化専攻2年
徳田 隆之 さん(韓国・高麗大学)



地域科学部地域文化学科 平成24年3月卒業
瓜野 早紀 さん(オーストラリア・シドニー工科大学)

留学しようと思ったきっかけは？

国枝 中学生の時から英語教員になるのが目標だったので、留学は経験しておきたいと思っていました。

箕浦 私は、母国語が英語ではない国での英語教育について研究したいと思っていたので、ドイツを留学先として選びました。

瓜野 中学2年生の時、ケアンズで2週間のホームステイを経験し、大学2年時にはゴールドコーストで1ヶ月間のサマースクールを経験しましたが、「もっと長期で留学したい」と思い交換留学を希望しました。

徳田 小学6年生の時に韓国にホームステイし、容姿は似ているのに考え方や食べ物、習慣が違うことを不思議に思い、興

味を持ったのがきっかけです。

箕浦 私と国枝さんは、岐阜大学に留学している外国人と寮で一緒に生活しながら学生生活をサポートしたり、日本語を教えたりするチューターをやっていましたね。

瓜野 私は、箕浦さんがリーダーを務めていた「Ryugaku Love」のメンバーでした。

箕浦 「Ryugaku Love」は、イベントや遊びなどを通して外国人留学生と交流するサークルです。楽しみながらお互いを理解し、語学力も向上できる、留学に興味のある人にはおすすめのサークルですよ。

留学してよかったことは？

国枝 子どもたちに留学の体験談を話せることです。英語の授業でも、留学での経験を活かす

改めて気づいた日本の良さとは？

国枝 食べ物ですね。やはり日本食は美味しいな、としみじみ思いました。あと、日本語の表現の豊かさです。「ポタポタ」「ジュージュ」といった擬音語のように、英語にはない日本語独自の言葉の表現にあらためて気づきました。

箕浦 日本人で良かったなと思いましたがね。日本人に友好的で、日本文化に興味のある人が多い印象でした。

瓜野 カスタマーサービスは日本が世界一だなと思います。外国ではスパーのレジ係が無愛想だったのが印象的で(笑)。

日本の「おもてなし精神」って、素晴らしいなと実感しました。

徳田 日本は建物も道もキレイに整備されていることを改めて感じましたね。

留学に興味のある学生へ、メッセージをお願いします。

箕浦 留学はハードルが高いと思われているけれど、そんなことはありません。岐阜大学には、留学をサポートする制度や環境が充実しています。ブラジルやハンガリーなど英語圏以外の国とも交流しているので、希望する国を見つけてどんどん留学して欲しいと思います。制度を最大限に利用しないと、もったいないですよ！

たいと思います。

箕浦 ドイツ語を習得できたことですね。「第二言語・第三言語を習得すると脳はどう変わるのか」が、研究テーマなので。また、エルフルトは旧東ドイツ時代の名残を色濃くとどめているので、歴史の勉強にもなりました。

瓜野 さまざまな価値観や考え、生き方があることを知り、自分の世界がぐんと広がった気がします。

徳田 高麗大学は名門校ということもあり、学生は本心に勉強熱心。他国からの留学生も多く、とても刺激を受けました。異なる文化や習慣、価値観、倫理観、人権問題などを知ったことは、研究テーマである「人の生命にかかわること」に今後大きな影響を与えていると思います。

国枝 奨学金制度もありますからね。留学は勉強だけでなく、思いっきり遊ぶいい機会でもあります。人間としての幅を広げる経験ができると思いますよ。

徳田 僕は「留学生支援室」の存在を知ってから、留学への道がぐんと広がりました。留学に興味のある人は、ぜひ、足を運んでみては。

瓜野 私は1年間日本を離れるのが不安でなかなか勇気が出せなかったが、最終的には行ってよかったと思っています。勇気を出して一歩を踏み出してください。

箕浦 留学するのなら、今しかないですよ！



知っているとお得!?

留学豆知識

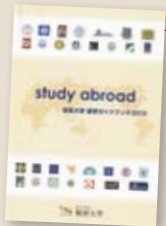
TOEFL-ITP、TOEIC-IPが無料で受けられる!

岐阜大学の学部生であれば、学内で実施されているTOEFL-ITP、TOEIC-IPのいずれかを年1回無料で受験できます。また、これまた無料のネットアカデミーを有効利用して上手にスコアアップを目指してください。(大学院生も利用可)

情報を制して留学のハードルを下げましょう

インタビューでも少し出てきますが岐阜大学には、奨学金制度等様々な支援制度がありますので、ぜひ活用してください。授業料免除の協定を結んでいる大学もあるので、そちらも参考にしてください。

留学ガイドブック2012



協定校の詳細データや、留学の段取りがよくわかる解説が盛りだくさん。きっと知りたい情報にめぐり会えるのではないのでしょうか。

留学生が見て、ふれて、感じた日本。

さまざまな国から留学生を受け入れている岐阜大学。そこで学ぶ外国人留学生に、日本と岐阜大学の魅力について語っていただきました。対談を通して、日本の新たな魅力に出会えるかもしれません。



大学院工学研究科
サムセイ・アリフ さん(タイ)



大学院応用生物科学研究科
ファム・トゥ・ハー さん(ベトナム)



大学院教育学研究科
チョウ・ブンサイ さん(中国)



大学院工学研究科
ズバイル さん(マレーシア)

岐阜大学(日本)に留学しようと思った理由は?

ファム 景観生態学が専門なので、岐阜大学の広くて緑豊かなキャンパスにひかれました。**サムセイ** 岐阜大学で客員教授をしていた先生から大学のことを聞き、興味を持ったのがきっかけです。

チョウ 内蒙古大学では日本語を専攻し、協定していた岐阜大学教育学部で交換留学生として一年間学びました。さらに研究を深めたいと思い、大学院へ留学しました。

ズバイル 中学生の時に第三外国語として日本語を選択し、日本に興味を持つようになり、マレーシアでは、近年アジアへの留学が推奨されていることもあり、日本に留学しようと思いました。

大学院では何を研究していますか?

ズバイル プレス成形品の衝撃吸収特性についてです。身近なものの例として自動車のバンパーなどです。事故時の衝撃の吸収性、形状、耐久性、コストなどについて研究しています。岐阜大学には「金型創成技術研究センター」があるので、技術的な面でも勉強になります。

チョウ 1920年代、日本に留学した中国人は中国に近代の精神と思想を持ち帰り、その後の中国の近代化に影響を与えました。彼らの活動に関する研究をしています。

サムセイ 水環境です。膨大なデータを必要とする研究なので、深夜3〜4時まで実験する日もあります。日本の水環境は大変クリーンですね。

ファム 景観生態学です。たとえば、同じ水田でも日本と東南アジアでは景観が異なります。自然の状態は同じなのに景色が違うのかとても興味深いです。この研究をする上で岐阜は最適だと思います。実際に農家でアルバイトをして、日本の田園風景を肌で感じながら学んでいます。

岐阜のどんなところに魅力を感じますか?

ズバイル 人がやさしいですね。あと、日本の真ん中なので、どこへ行くにも便利です。

ファム 山が多くて自然が豊か。高山など、歴史的な街並みが残されているところも素晴らしいです。

サムセイ 駅前には大きなビルが建ち並び、名古屋へも30分と便利。田舎すぎないところがいい

いと思います。

チョウ 空気と水がキレイですね。私の故郷(安徽省)は和紙で有名なので、美濃和紙のある岐阜にはとても親近感があります。

ズバイル 近所のおじいさんやおばあさんによく話しかけられます(笑)。みなさんとても親切です。

日本について再発見したことは?

ズバイル 日本語の奥深さです。ひと言の中に、たくさんの意味がある気がします。あいまいで言い回しも多彩ですね。**チョウ** 相手に配慮するところが中国ではいきなり相手の家に行

きます。でも日本では、まず電話して、その時も第一声で「今いいですか?」と聞きます。こういう気遣いが日本人的だなと思うし、生活してみないとわからないことですね。**サムセイ** 相手を尊敬するところが、挨拶の時に敬語をしたり、相手を敬う行為が生活に根差しているのは、いいことだと思います。

今後、日本でしてみたいことは?

ファム 日本をもっと旅して、その土地ならではの風景や人柄

にふれたいですね。**サムセイ** 週に2回EF(English Friend)として小学校で英語を教えています。研究以外に、日本の教育についても勉強して、タイに伝えたいと思います。**チョウ** 卒業後は日本企業への就職を希望しています。入社したら技術だけでなく、高い品質を追求する仕事ぶりなど、日本人の精神面にもふれたいですね。中国には日本人のやさしさも伝えて。両国が仲良くなるための架け橋になりたいと思っています。

ズバイル 博士課程に進学予定です。帰国したら大学で教鞭をとりながら研究を続けたいと思います。



この4人の国の大学に行ってみよう 協定大学募集要件 —中国・タイ・ベトナム編—

留学というと、すぐに欧米を想像してしまいがちだが、今アツいのはアジア! インタビューした4人もそうだが、勉強に対するモチベーションの高さは戦後の日本人を思わせるものがある。自分自身を高める意味でも、刺激として留学にそういった要素を加えるなら、ぜひともアジアがオススメだ。

国名	大学	派遣可能人数	講義言語
中国	浙江大学	3	中国語
	広西大学	4	中国語
	電子科技大学	2	中国語 英語
	江南大学	3	中国語
	吉林大学	4	中国語
	華僑大学	3	中国語
	同濟大学	2	中国語
	内蒙古大学	2	中国語 英語 日本語
タイ	西南交通大学	4	中国語
	内モンゴ農薬大学	2	中国語
	カセサート大学		タイ語 英語
タイ	チェンマイ大学	3	タイ語
	モンクット王 トンブリ工科大学	3	タイ語 英語
ベトナム	ハノイ工科大学	2	ベトナム語

岐阜大学は

学内外の異文化交流を 推進します。

岐阜大学には、国際化戦略を企画・立案し、各部署との連携により国際交流を推進するための様々な組織があります。さらなる国際化を目指して、次世代の国際社会を担うより優れた人材を育成しています。



English Lounge

海外経験豊富な本学教員がコーディネーターとなり、学生、留学生、教育職員、事務職員など学内のすべてを対象に“*All English No Japanese*”の環境を体験できます。3～5人のグループに分かれて、毎回設定するテーマについてディスカッションをします。ゲストスピーカーを招いたり、ポットラックパーティを開催したりとイベントも盛りだくさんです。英語をもっと話したいというモチベーションを高める場となっています。

国際戦略本部

岐阜大学国際戦略本部は、本学の国際化を推進するための中核組織として、2009年5月に設置されました。主な活動として、国際化戦略の企画・立案などを行い、新たな学術協定校との協定や、ダブルディグリー等のプログラムに関する覚書の調印など、各部署との連携により岐阜大学のさらなる国際化を目指しています。

留学生センター

岐阜大学留学生センターは、1996年5月文部省省令施設として設置されました。センターの主な業務は、外国人留学生の日本語・日本事情に関する教育、外国人留学生の修学・生活上の相談や指導・助言を行うほか、海外留学を希望する日本人学生に対して指導・助言、修学支援を行っています。さらに、学術交流協定校とのサマースクールの実施、本学共通教育における日本人学生と外国人留学生を対象とした異文化交流に関する授業も展開し、留学生交流を通じ大学の国際化の推進に寄与しています。

2012年4月留学生センター棟内に、新たに「交流ラウンジ」が開設されました。ラウンジでは外国人留学生と日本人学生等との交流や勉学・情報収集の場として多様な活動ができ、更なる留学生交流の促進が期待されます。是非交流ラウンジに足を運んでみてください。

留学生支援室

本学学生の海外留学支援と、外国人留学生の渡日前準備から帰国後のアフターフォローまでをケアする目的で設置されました。各種手続きや書類作成、企業・学校・自治体・団体との交流支援などを行う事務組織として活動しています。2012年2月より図書館1階（講堂隣）に移転し、本学学生にとっても、より身近な存在となっています。

EVENT

異文化交流

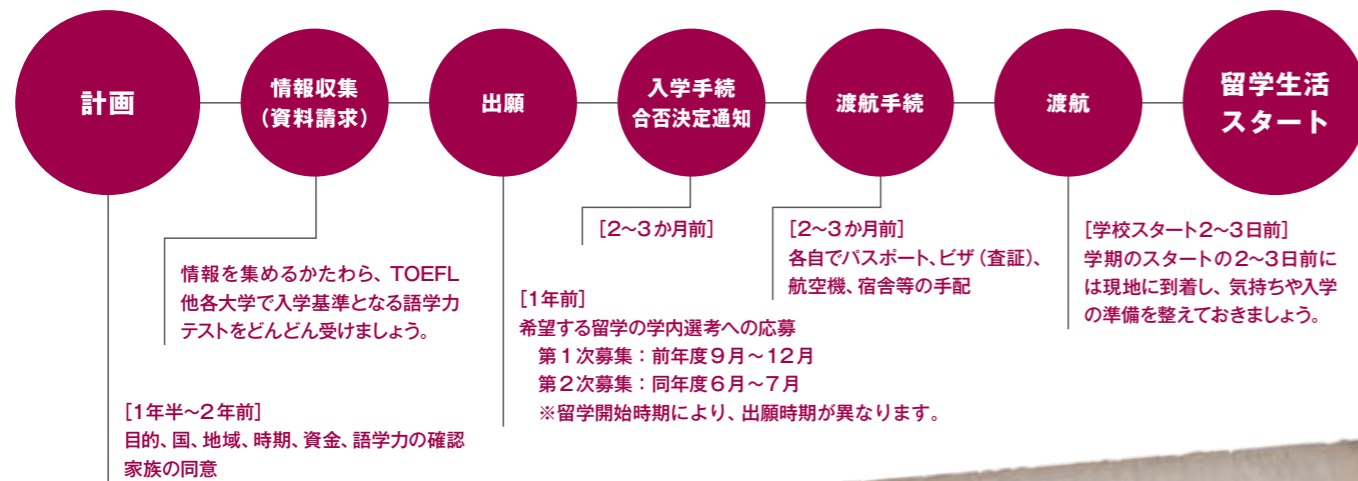
学生や教職員の国際化を図る目的で年2～3回開催しています。日本も含む様々な伝統や文化に触れ、異文化理解を深める機会を提供しています。

外国人研究者による講演会

学生等の国際理解を深めるため、専門分野以外にも講演者の所属機関、その周辺地域、及び居住国の状況などを含めた講演会を支援しています。

交換留学の流れ

交換留学の流れを下図に示しました。とにかく準備期間が長いので、興味があるならすぐにでも計画に取りかかりましょう。出願についての詳しい情報は、留学生支援室に相談してください。



NEWS

岐阜大学留学生センターは 設置15周年を迎えました

留学生センターでは、2011年11月30日(水)に、センター設置15周年を記念して記念事業(式典、講演、シンポジウム)を開催しました。

式典では、小林浩二留学生センター長がセンターへの支援に感謝の意を表し、「さらなる国際交流の発展に尽力したい」とあいさつ。また、森秀樹学長が「国際化を通して大学の活性化につなげていきたい」と述べました。

記念講演では、黒木登志夫前学長が「国際化を進めるために大事なこと」と題して講演。留学生の現状や世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)の試みを説明されました。また、英語とのつきあい方についてユーモアたっぷりに話され、参加者は時間を忘れて聞き入っていました。

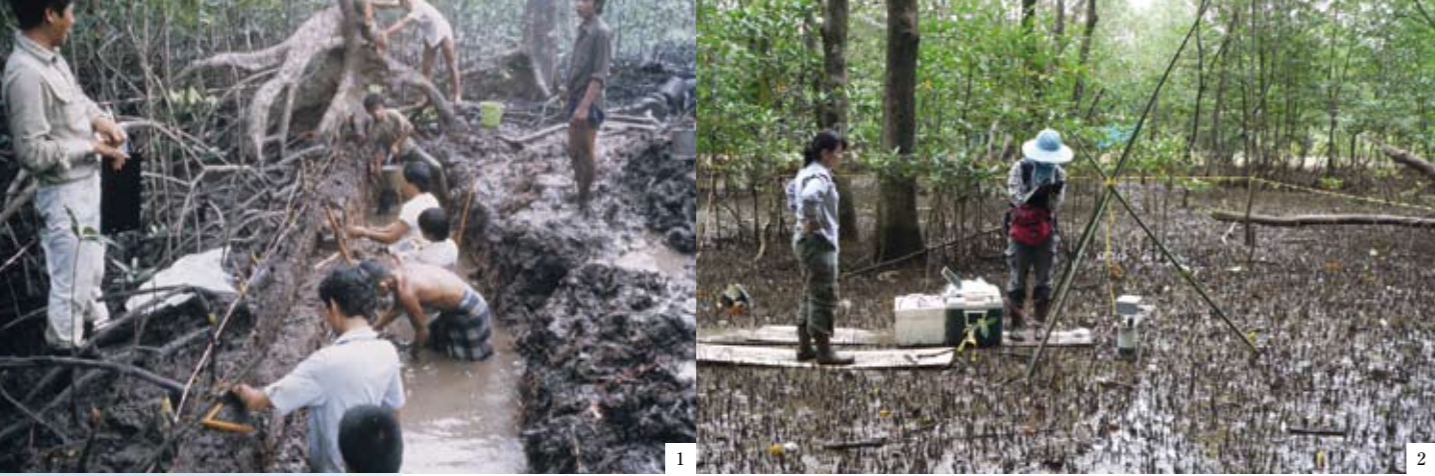
シンポジウムでは、本学が学術交流協定を結んでいる海外の大学の先生をお招きし、各大学の国際交流の概要を報告していただきました。また、それらの大学へ留学した学生4名の体験報告も行われました。「留学によって自分の世界が広がった」、「日本人学生と留学生が交流できるプログラムがもっと増えるといい」、「人への思いやりや時間の大切さを知ることができた」など、留学体験の感想を話しました。

また、記念事業の一環として、15年の歴史や事業を振り返り、本センター関係者の執筆による「設置15周年記念誌」を作成し、参加者に配布しました。

【年表】(年度)

- 1986 — 国際交流会館A棟 竣工
- 1988 — サマースクール(受入) 開講
- 1995 — 国際交流会館B棟 竣工
- 1996 — 留学生センター設置
- 2009 — 国際戦略本部設置
- 2010 — 国際交流会館C棟 竣工
- 2012 — 留学生センター内 交流ラウンジ設置





1. マングローブ原生林で行った掘り。1982年に南タイで撮影した思い出の写真。深さ1mのトレンチに海水が湧きだしている。バケツの手前にいるのが30歳頃の私。
 2. 土壌微生物による有機物の分解速度の測定。東タイの森林で女性研究者(チュラロンコン大学講師=連合農学研究科修士と本学卒業生)が奮闘した。
 3. マングローブ林生態系をめぐる炭素の循環経路。写真は東タイにあるヒルギの二次林。中央の木には、キュウリのような胎生種子が葉間に多数ぶらさがっている。



04 総合文化海外実習 実学を通じて

教育学部英語教育講座
異 徹 准教授

日常会話から英語に触れ、実践的な英語学習ができるだけでなく、歴史のある施設や観光地を数多く訪れられて、とても充実した研修でした。また多民族国家の利点や課題を知ることは、多民族共生や異文化交流について深く考えるきっかけにもなりました。今後もぜひ多くの人に参加してほしいと思います。

教育学部 英語教育講座4年
横幕 香澄さん

オーストラリアは世界有数の移民国家であり、移民の歴史、多文化主義、オーストラリア英語、先住民のアボリジニなどについて現地での授業である。授業は、午前中のシドニー大学における講義と午後の地域における文化体験実習・小旅行などを通して、座学と体験的な学習の両面から理解を深めるように計画されている。授業で学んだことを実践的に活用し、日本では経験出来ない形で英語や異文化を学べるようなコース・デザインとなっている。

具体的に取り上げるトピックは「[Becoming a British colony] [Aboriginal Australia] [From the White Australia Policy to the Universal Migration Act] [Australian Multiculturalism] / A Multicultural Japan?」 [Australia-Japan relations and Japanese culture in Australia] 等、オーストラリアの歴史と現代社会、その文化の理解を深めていく。併せて「Reading, Writing, Speaking, Listening 全」の Language Skill を総合的に使った授業、地域における異文化体験実習、シドニー大学 International House における生活等を通じて、参加者の英語運用力・異文化理解力を実践的に高めていくことを目標とする。

05

マングローブ林に眠る怪物

熱帯雨林は、一年中高湿多湿な環境にあり、生物本来の生活が観察できるはずだ。これは、昭和期に活躍した生態学者の言葉である。私にとって熱帯雨林はまだ見ぬ聖地で、途方もない巨樹、不思議な生物、未知の探検、何もかもが好奇心をくすぐった。1982年に、日タイ合同の学術調査隊に加えてもらったのは、恩師の推薦によるもので、この瞬間に私の人生は変わった。師はありがたい先達であった。マングローブ林の根量を調べるために、期待と不安の中、タイ王国に出発した。

調査許可など必要な手続きを済ませて、ようやく長距離バスで南タイにたどり着いた。ここは泥と水の世界で、50m近い高さの太木が林立していた。毎日、暑さと泥と虫に悩まながら、仲間とともに原生林で根を掘った。そして、マングローブ林が大量の根を持つことに気づいた。根が多いからこそ、大木が泥地に平気で立っていられるのだ。この森林は、地下にものが集積し、潮が入る環境のゆえに、特殊な炭素循環の様式を持つ可能性がある。私は、この仮説を検証するため、熱帯で仕事を続けることを決心した。



応用生物科学部
小見山 章 教授
(森林生態学)

大気と森と海の間で、炭素は生物・物理的に循環している。森林生態系は、生物群による同化と異化のバランスで、炭素固定速度を変化させている。具体的にこの速度を解析するには、まず樹木量とその時間変化を求めねばならない。東南アジア各地で、ギネスに載りそうなくらい多くの樹木を測定する作業を続けた。器官の枯死脱落速度や、土壌微生物による分解呼吸の速度も測定した。

充実した30年間の、夢のように過ぎた。現地の仲間や教え子と一緒に、検証に必要なデータをそろえた。その結果はこうである。マングローブの同化速度に比べて、土壌に集積する有機物が分解する速度は極端に小さかった。つまり、収入が支出を超え、この生態系の炭素固定速度は非常に大きいことになる。これは、莫大な量の炭素が、水浸しの地下に未分解のまま眠っていることを意味する。もし、人間がマングローブ林を土壌まで破壊してこの怪物を覚ますと、とんでもない環境変化が起こるのだ。

すでに人間は、原生的な森林を、小規模な二次林にほぼ置き換えてしまった。私たちの警鐘は、世界に届くだろうか。

PICK UP!!

岐阜大学山岳部

未踏峰

未踏峰 Ziya Madin (ジヤ・マディン) 峰

北緯 27度44分02.9秒

東経 97度00分57.2秒

4112m

登頂。

2011年12月28日。岐阜大学山岳部の遠征隊が、ミャンマーの未踏峰ジヤ・マディン峰(標高4,112m)に初登頂。1994年以来となる海外遠征の成功は、廃部寸前にまで追い込まれていた山岳部復活のスタートでもあった。その歴史的な未踏峰への挑戦と山岳部の今後についてお話を伺った。



工学部3年
伊藤 翼

山岳部主将。父の影響で幼い頃から山登りを経験。今回、未踏峰の山頂に立った。



応用生物科学部3年
森 脩祐

山岳部員。登山を始めたのは大学から。キャリア2年で未踏峰へ挑んだ。



岐阜大学名誉教授
藤井 洋

山岳部前顧問。2003年に退職後も、山岳部の指導と支援に尽力している。

岐大山岳部を復活させた、
ミャンマー未踏峰への挑戦。

2011年12月17日に出発した遠征隊。プータオから奥地へ入って頂上を目指し、12月28日14時05分に見事登頂に成功し、2012年1月11日に無事帰国しました。
山岳部OBをはじめ、たくさんの方たちのご助力もあり、無事に帰国してきた山岳部の伊藤さんと森さん。大きな経験をつんだ彼らが牽引する今後の山岳部の活動に目が離せない。



山岳部復活

過酷な試練が続いた、
山頂への道のり。

——遠征隊のメンバーは？

伊藤 僕と森くん、藤井先生とOBの鰐部隆義さんの4名です。

藤井 私と鰐部くんはベースキャンプ(標高2400m地点)に残り、山岳部員の2名が山頂をめざしました。

——この挑戦で、苦労したこと？

伊藤 目標にしていた4320mの山が実際には存在しないことが直前になって判明し、現地入りしてから変更するなどバタバタのスタートでした。

藤井 未踏なのでもちろん地図はなく、衛星写真を繋ぎあわせてオリジナルの地図を作りました。なので、直前になって「この道が違う」とか大変でしたね。

とにかく情報が少ないので試行錯誤でした。

森 下痢も大変でしたね。山に入る直前から3〜4日続き、ベースキャンプに到着した頃ようやく治って。

伊藤 そうそう、首からトイレットペーパーをぶら下げるくらいひどかった(笑)食欲があったのが救いでしたね。

森 道のない溪谷の川を歩いたり、5m先も見えない状態のジャングルを歩いたり、ハンターでもあったポーターには道案内でも随分助けられました。

——山頂へのアタックでは厳しい決断を迫られたのでは？

伊藤 天候が崩れはじめていたので急ぐ必要があり、28日午前7時に山頂アタックを開始しました。

森 衛星写真と状況が違ったため、インド側に迂回するなど



森 13時15分、残り標高150mというところで断念しました。体力が限界でしたし、技術的にも難しいと判断したからです。無理はしませんでした。

伊藤 離れて行動するのは危険なので苦渋の選択でしたが、ポーターも2名いたので、登頂と下山の2チームに分かれました。森くんのも心配だったし、一人で山頂をめざす不安もありましたが、「バックアップしてくれたOBの期待を裏切れない」という気持ちに後押しされましたね。

——そして14時5分、登頂に成功。その瞬間のお気持ちは？

伊藤 達成感はありませんが、同時に「懸垂下降で滑落しないか」「またあのナイフリッジを歩くのか」と下山について考える冷静な自分もいました。

——無事、ベースキャンプに戻った時の心境は？

伊藤 ようやくホッとしたというか。感情を押し殺し「冷静でいなくては」という緊張感から解放されたせいかな、思わず涙が溢れてしまいました。

森 先生も泣いていたので、僕たちも泣けてきちゃって。

藤井 心配で心配でしょうがなかったですからね。今でも、2人の無事な顔を見たことを思い出すと、涙がでますよ。何よりでした。

名門復活を経て、新生・岐大山岳部へ。

——未踏峰挑戦を終えて、今後の目標は？

伊藤 とにかく成功してホッとしています。今回の登頂は、OBにとっても山岳部復活の希望でしたから。でも、本当に厳しかった。もう一回登れと言われても嫌です(笑)

森 これからも山登りを続けたい、と思えるいい経験になりました。

伊藤 装備を軽量化して短期間で登山する「ライト&ファスト」というスタイルが生まれるなど、登山は以前よりスポーツ的な側面も色濃くなっています。しかし、安全管理という本質は変わりません。その本質をしっかり学んで受け継ぎ、新旧の価値観を認め合いながら、新しい風を山岳部に取り入れていきたいと思っています。山だけでなく、自然という大きな視野で活動の幅を広げて活動していきたいですね。



元岐阜大学学長 今西錦司先生に捧ぐ

岐阜大学の遠征登山を語るにあたって、今西錦司元岐阜大学学長をおいて語ることはできません。そこで、今回ミャンマー隊を率いた藤井洋名誉教授から、在りし日の今西先生のお話を伺いました。

——時は1968年、昭和43年1月。大学紛争真っ盛りの時代であり、岐阜大学はキャンパスの統合を目指して全学部こぞって激烈な議論を交わしている最中。私が岐阜大学に赴任したのがちょうどこの頃。当時27歳でした。その時、岐阜大学学長を勤めていらしたのが今西錦司先生でした。

私が学長室を訪ねた際、「ああ、君のことは平吉さん(平吉功教授)や平林さん(平林芳夫教授)から聞いてた。あのな、岐阜大学の山岳部は45年の歴史がある立派な山岳部なのやがな、海外遠征はまだ1度もやとらん。君、やってみるか」。これが岐阜大学遠征登山の始まりとなった一言でした。

實力に応じた計画を作って持てこいという指示を受け、当時まだ日本人が誰も入ってなかったアフガニスタンのワハン回廊に入り、そこからさらに支流のベギッシュ谷を詰め、氷河上部の6,000m級の未踏峰に登る計画書を持って行きました。「これは良

い計画やな、わしも昔からワハン渓谷には注目しとったんや。よしこれでい。わしのできることは、なんでもやるで」というのが、今西先生のお返事でした。普通、私のできることはなんでもやるというのは、何もやらないというのとほとんど同義。しかし、今西先生の「なんでもやるで」はそれとは違い、遠征のイロハを手取り足取り教えていただけというものでした。そして、平林芳夫(当時教授)を隊長とし、鈴木延隆OBを登攀隊長とする遠征隊を組織し、翌1969年夏、アフガニスタンに出発したのです。隊員の誰も飛行機なんてものに乗ったことはありませんでした。

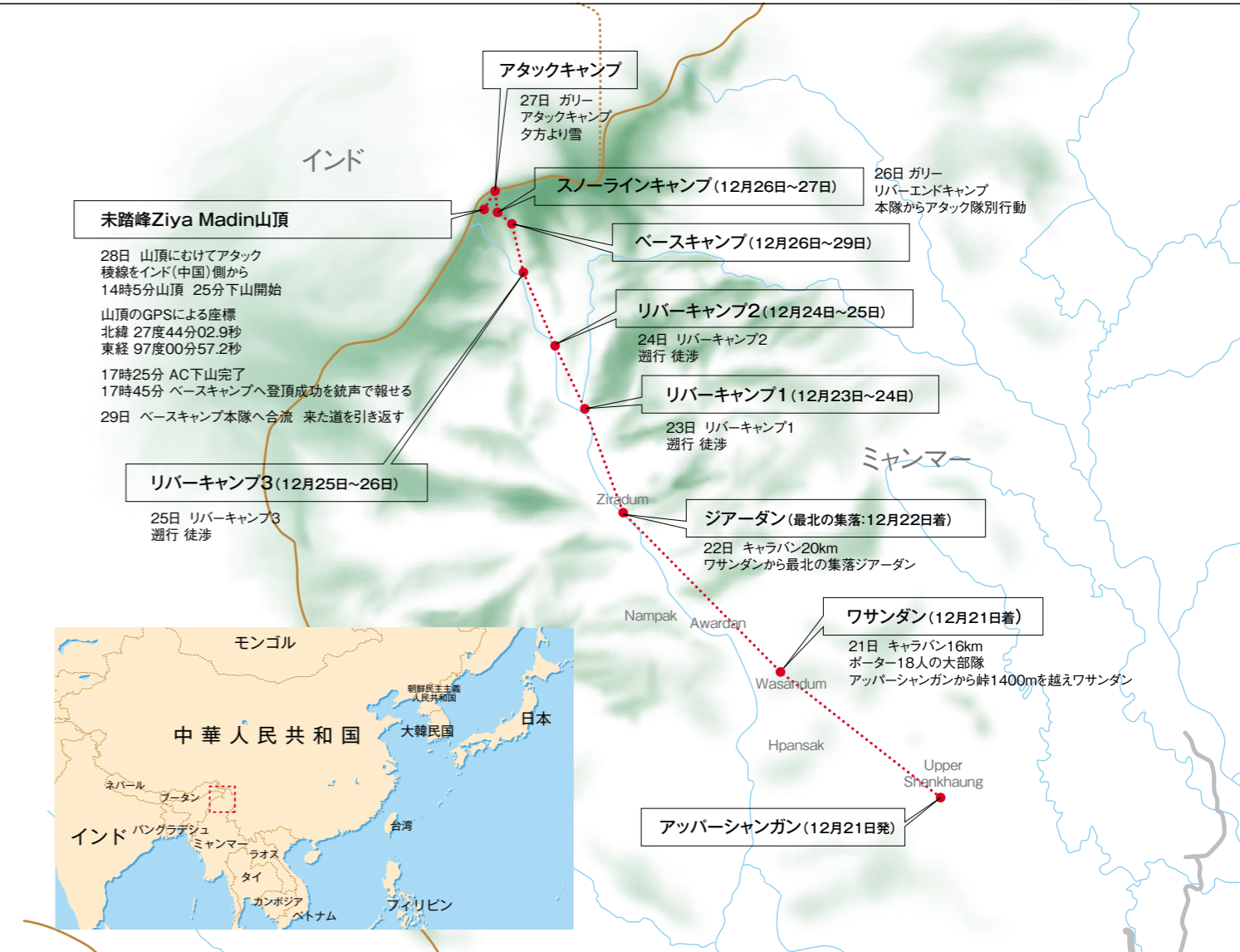
遠征隊は1969年6月中旬に出発し、7月中旬ベギッシュジュムおよびコーイ・ファルザンド2座の初登頂に成功しました。今西先生はこのほか喜んでくださり、お世話になった岐阜乗合自動車株式会社の竹田直会長とともに盛大な祝賀会を開いてくださいました。

今西先生には、先生が学長を退かれてからも、数多くの山行きにご一緒させていただきました。しかし、90歳も近づいてこれるとだんだん目が不自由になり、ご自身の研究や著作の執筆が続けられなくなりました。それでも山に登ることはやめられませんでした。細い杖を手に持って、『これはわしの触覚なんや』と言って、山を歩かれました。残雪のブンゲン山(伊吹山地に位置する射能山)に登ったときも、頂上で大いに飲み、語り、歌い、そのため最後の雪の急傾斜を下るころには陽がとっぷりと暮れてしまいました。このときにも、『わしには関係ない。どうせ下りは見えへん』と笑っておられました。その頃ご一緒させていただいた私達は、そこに不屈のパイオニアの姿を見ていたのです。

今西先生はその後もまもなく1992年、多くの人に惜しまれながらこの世を去りました。御年90歳でした。

——それからちょうど20年。存亡の危機に陥っていた岐阜大学山岳部の快挙“ミャンマー未踏峰ジヤ・マディン登頂”。今は亡き今西先生ですが、きっとどこかの山でっぺんで、杯を片手にニコニコ笑って喜んでくださっているに違いありません。

岐阜大学名誉教授 藤井 洋



大学生生活をふりかえって

大学での数年間は、様々な出会いや経験、挑戦の連続であり、後の人生に大きな影響を与え、自分自身にとっても貴重な時間となっていることでしょう。
今回4人の方に「大学生生活をふりかえって」と題して、作文を書いていただきました。他人の人生のピースではあっても、自分にとって、きっとなにか考えさせられるような何かを見出すことができるのではないのでしょうか。



第2の“家族”との思い出を胸に。

シーシーエヌ株式会社勤務
地域科学部地域文化学科 平成24年3月卒業
鯨岡 真由 さん

私は大学で、かけがえのない仲間に出会いました。それまではなんだかんだで家族と過ごす時間の方が多かったですが、大学では一人暮らしを始めたこともあって、友達と過ごす時間が圧倒的に増えました。同じ学部の友達、研究室、サークル、その他の活動で出会った友人や社会人の方々など、多くの人と楽しい時間を過ごさせてくださいました。第2の“家族”とも言える仲間と出会い、一緒に楽しみ、一緒に苦労し、一緒に辛い思いを共有し、私たちはいつでも一緒でした。そういった中で深まった信頼は家族と離れているさみしさも補ってくれるほどで、卒業してからも大切にしていきたいと、心から思います。その中でも学年の枠を超えて関わることのできるサークルとの出会いは私にとってとても大切で、先輩の姿勢から学び、それを後輩に伝えていくことも経験できました。こんなにも大好きだと思える仲間に出会えたこと、本当に幸せに思います。みんな、ありがとう！



本当にやりたいことを追いかけた2年間。

静岡市立日本平動物園勤務
大学院応用生物科学研究科・修士課程 平成24年3月修了
横山 卓志 さん

私は大学3年の秋に、自分が本当にやりたいこと=夢を見つけました。動物園で働くことです。学部卒でも動物園に就職することは可能ですが、「もっと様々な分野を学びたい」、「いろんな世界を見てみたい」という思いから大学院に進学しました。
進学後、大学ではレッサーパンダの研究をしながら、暇を見つけては全国の動物園水族館を70園館以上訪れ、各園館のコンセプトや展示方法を学びました。また、日本と欧米の違いを知るため、1ヶ月かけてヨーロッパ9ヶ国を一人で旅し、22の動物園水族館を巡りました。研究会やシンポジウムにも参加し、様々な分野の方の意見を聞き、自分が動物園で何をしたいか考えました。今振り返ると、学部4年間は受動的な学びでしたが、大学院2年間は非常に能動的に学べたように思います。積極的に行動し、行く先々で様々な出会いがあり、自身の可能性が大いに広がった2年間でした。おかげで夢を叶えることができ、今は次の夢に向かっていきます。



自分自身を磨く1年から、挑戦し続ける2年目へ。

大学院工学研究科博士前期課程
社会基盤工学専攻 2年
堀 裕貴 さん

研究室配属が3年の3月頃に決まり、本格的に卒業研究が始まりました。学部生時代の勉強内容などに自信はありましたが、卒業論文を進めていく過程で自分自身には足りない力や能力が多くあると実感しました。専門的な知識も足りませんでしたが、特に失敗や問題に対してのアプローチ・問題解決能力、研究内容を文章にする力やプレゼンで発表する力などが足らなかったです。学部生時代の授業からはこれらの能力をなかなか培うことができないにも関わらず、社会に出てから重要な能力です。結果、「問題解決能力やプレゼン力がない状態で社会に出ていってこれでうまくやっていけるのか」と強く不安を感じました。そして、自分自身をより磨きたいと思うようになり、大学院進学を決めました。
研究が始まり、一番強く感じたことは失敗があるからこそ自分自身は成長するということです。失敗を恐れずに最後まで挑戦し続ければ、自ずと成長し高みに上がっていきけると思います。この気持ちを胸に残りの大学院生活1年間をより確かなものに成長していきたいです。



集団の中で。社会の中で。

いちい信用金庫勤務
教育学部生涯教育課程 平成24年3月卒業
山越 健太 さん

私は、フットサルサークルや学生企業展実行委員などの課外活動が大学生活の中で一番印象に残っています。課外活動では、複数人で活動・作業を行うことが多く、それぞれ立場や役割が違うので、考え方も様々です。仲間どうして意見が対立することもあり、情報や意思の共有を行うことが困難と感じる時もありました。また、サークルではリーダーを務めることもあり、メンバーの意見をまとめ、より良い方向へ導くことの難しさを身を持って経験し、コミュニケーションの大切さを深く実感することができました。そして、このような集団・組織での活動を通して、各々が持つ考えや個性を理解するという意味で相手を思いやる気持ちと、立場や役割をわきまえて行動するという集団内での自分の取るべき姿勢を学んだと考えています。このような学びを行えたことは、社会へ出て組織に身を置く私にとって大きな財産となると思います。

岐大のいぶき No.22 アンケート報告!



前号
岐大のいぶき
No.22

読者の皆様からのアンケートを通したやりとりも2回目となりました。前号「岐大のいぶき No.22 (2011年10月発行)」に、たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。アンケートの結果を報告します!

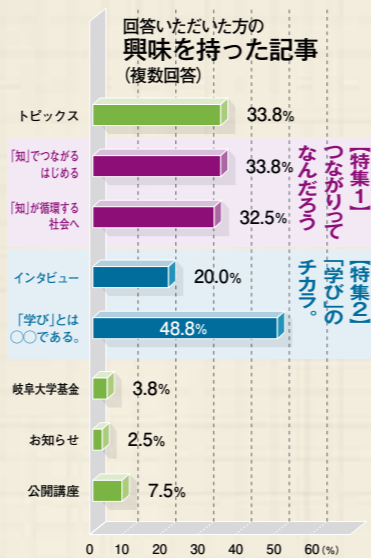
	No.20 (131名)	No.21 (108名)	No.22 (80名)
□広報誌のデザイン [良い]	46.6%	→ 66.7%	→ 58.8%
□広報誌の読みやすさ [読みやすい]	42.7%	→ 56.5%	→ 56.3%
□広報誌の情報量 [ちょうど良い]	74.8%	→ 74.1%	→ 72.5%
□岐大の様子 [よくわかる]	30.5%	→ 22.2%	→ 28.8%

リニューアル後のデザイン、読みやすさ、情報量は、No.22の今回もほぼ同じご意見をいただいております。ありがとうございます! …ただ、「岐大の様子がよくわかる」は、読者の皆様から「まだまだぞ!もっとガンバレ!」との励ましのご意見と受止めております。いただいたご意見の中では「学生の日々の様子をもっとわかると良い」「学部ごとの活動内容(学業のカリキュラムなど)を特集してほしい。掘り下げた内容であってほしいと思います」などをいただきました。スタッフ一同、一層努力して参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

No.22の記事の中では特集2「学び」のチカラ、とりわけ「『学び』とは○○である。」には、多くの方に興味を持っていただきました。ご意見の一部を紹介させていただきます。「『インターンシップ経験者に聞きました』がよかったです。これか

らも続けてほしいです」「今後も活躍している学生を取り上げてほしい」ありがとうございます。また「『基盤的能力』の自立的学習・教育について、どのように取り組まれているのか、もう少し詳しく知りたい。誰もが判るように、説明できる能力は、とても大切だと思います」とのご意見もいただきました。教育に軸足を置いた大学として、ますます頑張ってください。そのほか「岐阜大が全国的に有名になるように頑張ってください!」「子供は他大からこちらの院へ進みましたが、岐阜大学の開かれた校風には感謝しております。これからもますます、伸び伸びと学生が育つことを願います」「いつも送っていただきありがとうございます。遠方の為、岐大の情報を知る貴重な存在です。これからも楽しみにしています」など、とても嬉しい励ましのご意見もいただきました。ありがとうございます。

「岐大のいぶき」は、読者の皆様とともに作っていく広報誌を目指しています。皆様からのご意見をお待ちしております。



岐大の旬を知るサイト“G project!”



Gプロジェクトの「G」とは、岐阜大学のこと。地域社会に愛される大学を目指し、世界へつながる(Glocal)活動、魅力的な(Glamorous)活動、すばらしい(Great)活動、栄誉ある(Glory)活動を発信したいという思いを込めています。

岐阜大学の様々な活動を社会へ発信するツールとして、昨年9月にスタートした“G project!”サイト。これまでに100件を超えるブログ記事が投稿されています。教職員や学生の声、学生の学びの様子、サークル活動の報告など、岐阜大学の「旬」な情報をカテゴリー別で掲載。例えば、本誌でご紹介した山岳部のミャ

ンマー未踏峰登頂についても、出発から登頂成功までの様子やその後の活動が、『学生プロジェクト』内のコーナー『Gutsだぜ!われらサークル』で詳しくご覧いただけます。岐阜大学の“今”がわかる“G project!”サイトを、ぜひのぞいてみてください。



<http://gproject.gifu-u.ac.jp/>

あなたの知らなかった岐阜大学が発見できるかも? 携帯サイトも同時公開しています! 皆様からのご感想をお待ちしております。



基金創設の趣旨

本学が、更なる飛躍発展を遂げ、地域社会からの信頼と期待に応え、地域社会に貢献できる大学としての責任を果たすためには、流動的・機動的資金の運用が可能である基金が必要であることから、平成21年6月に創立60周年記念を契機として「岐阜大学基金」を創設いたしました。この基金は、多くの皆様のご協力により、学生に対する奨学金や国際交流事業、特色ある研究活動への支援、地域社会への貢献事業、キャンパス整備など継続的な教育研究活動に活用することとしております。

基金による事業展開

- 学生支援事業(深い専門知識、広い視野と総合的な判断力を備えた人材育成のための支援)
 - 優秀な学生への奨学金制度
 - 学生の海外留学や交換留学生への支援
 - 外国人留学生への奨学金の充実 等
- 教育研究活動支援事業(独創的・先進的な研究を行い、成果を絶えず社会に発信するための支援)
 - 将来性が見込める優れた研究者に対する研究への支援
 - 教育研究機器の整備
 - 研究者の国際的な研究活動への支援
 - 海外の協定大学との教育研究交流への支援 等
- 地域貢献活動支援事業(地域社会・国際社会からの信頼と期待に応えるための支援)
 - 地域企業との連携や協力事業への支援
 - 多様な生涯学習機会への支援 等
- キャンパス環境整備事業
 - 講堂、体育館、武道館、グラウンドの整備 等

平成23年度支援事業等

岐阜大学基金の創設以来、多くの皆様からご寄附をいただき、ありがとうございます。貴重なご寄附を有効活用するため、次の支援事業を展開しております。

- 学生支援事業
 - 応援奨学生
 - 岐阜大学流域水環境リーダー育成拠点形成事業に関する私費外国人留学生学習奨学金
- 特定事業(寄附者が指定する事業)
 - 国際交流促進のための奨学寄附金
 - ドリームプロジェクト(コンティグ・アイ)
 - 岐阜大学事業奨励奨学寄附金
 - 外国人留学生支援事業

寄附者芳名録

卒業生をはじめ多くの皆様から岐阜大学基金へご協力いただき、心よりお礼申し上げます。ここに、ご芳名を掲載させていただきます。

今号では、平成23年10月から平成24年2月末までにご寄附いただいた方で、掲載をご承いただいた方を五十音順にご紹介いたします。なお、本学役員につきましては割愛とさせていただきます。また、3月以降にご寄附をいただきました方については、次号にて掲載させていただきます。

今後とも、岐阜大学基金の支援事業等を発展するためにより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

個人

浅井 栄司様	伊藤 美知子様	大橋 宏重様	加藤 義雄様	小谷 和彦様	千賀 省始様	丹羽 憲司様	松浦 昭様	毛利 美恵子様
浅井 定三様	福積 由里様	大脇 文子様	門脇 弘子様	後藤 忠喜様	高木 和彦様	丹羽 米子様	松浦 宏允様	森 健次様
浅井 紀雄様	伊吹 治郎様	岡島 光子様	金森 祥二様	小林 房代様	高橋 睦様	野原 春江様	松岡 功様	森 茂男様
浅田 良司様	今井 龍幸様	岡田 実様	加納 宣康様	小林 文一様	高橋 明博様	野村 美代子様	松下 捷彦様	森下 博史様
東 修次様	今井 守夫様	奥坂 拓志様	加納 宏様	小柳 治様	高橋 弘美様	長谷川いさ子様	松野 知文様	安田 淑子様
足立 進様	今峰 鉦子様	小栗 奈津子様	神谷 重平様	坂井 篤広様	高岡 みや子様	長谷川 妙子様	松野 寿様	安田 信義様
安積 輝夫様	伊予田喜久子様	尾関 郭子様	河合 信様	坂井 多美子様	田口 敬様	長谷川 弘志様	松久 文子様	矢野 久代様
天野 和子様	岩砂 和雄様	恩田 孝良様	川村 哲也様	坂田 茂子様	多代 正彦様	服部 公文様	松久 初子様	山口 清次様
安藤 雅子様	岩瀬 拓土様	恩田 美喜夫様	木村 志づ様	篠田 忠様	田中 晃様	早川 和重様	三嶋 廣繁様	山下 和巳様
池田 善彦様	岩田 淳夫様	各務 稔様	木村 美代子様	柴田 芳明様	田中 佳夫様	林 秀喜様	三品 和子様	山本 絢子様
石川 由美子様	岩田 哲夫様	梶田 信一様	木村 善美様	澁澤 馨様	谷口 和視様	林 正一様	水谷 田鶴子様	山本 完六様
石原 伸吾様	岩屋 広光様	梶田 昌宏様	木村 仁様	下川 高賢様	種村 廣巳様	林 真理子様	三井 淳藏様	吉尾 博之様
五十川 好子様	鷗 宣昭様	桂 岐美枝様	木村 博様	下出 きよ子様	寺倉 俊勝様	早野 哲治様	三塚 邦昌様	吉田 雄一様
市橋 勇雄様	浮田 雄二様	桂川 信子様	葛谷 泰雄様	杉山 榮吉様	陶 玉佩様	平林 英理様	味元 宏道様	吉田 由光様
市原 美里様	白 進様	加藤 俊徳様	久保田 正行様	杉山 陽子様	戸崎 尚朗様	平松 哲様	宮川 三男様	渡辺 浩光様
伊東 和枝様	内原 勇様	加藤 広子様	栗本 刻夫様	仲井 純一様	福井 俊道様	福井 貴巳様	宮澤 正治様	渡邊 暁様
伊藤 和幸様	梅木 茂宣様	加藤 壽作様	栗山 園彦様	鈴木 利昭様	南部 晋次様	福井 貴巳様	武藤 正文様	
伊藤 隆雄様	梅村 正靖様	加藤 順子様	五島 昌学様	関 紀子様	西井 正美様	古田 照明様	村瀬 薫様	
伊藤 勉様	大田 浩子様	加藤 祐峰様	児島 友子様	瀬 古 章様	西村 康治様	古橋 貞二郎様	村本 登代二様	

法人・団体等

医徳養会 様	(社)岐阜県医師会 様	岐阜車体工業(株) 様	平井精密工業(株) 様
(株)市川会計 様	(有)大澤化学 様	シーエムシー技術開発(株) 様	富士通(株) 東海支社 様
(株)興栄コンサルタント 様	イビデンエンジニアリング(株) 様	シーシーアイ(株) 様	ミニストップ(株) 様
(株)志水製作所 様	医療法人社団慈朋会澤田病院 様	天龍コンポジット(株) 様	
(株)深見製作所 様	岐阜県JAグループ 様	特許業務法人オンダ国際特許事務所 様	
(株)前田シェルサービス 様	岐阜県地質調査業協会 様	日東興産(株) 北方自動車学校 様	

公開講座のご案内

岐阜大学では大学で行われる授業や研究の取り組みを広く知っていただくため公開講座を行っています。募集期間を設けている講座がありますので、詳細は大学 Web サイトでご確認ください。

講座名	受講対象者	開催時期	講習料	実施部局
■親子天文教室（4回）	小中学生とその保護者	4/28(土)(終了)、8/25(土)、 10/20(土)、2月未定 4・8月 18:00~21:00 10・2月 17:30~20:30	無料	☒ 教育学部 058-293-2351
■化石教室 「園児のための化石レプリカ作り教室」 「小学生のための化石教室」	幼稚園・保育園児、 小学生とその保護者	5/6(日)(終了)、11/3(土) 13:30~15:00	無料	
■昆虫教室 「わくわく、びっくり!昆虫探検」	小学生とその保護者	7/7(土) 9:00~12:00	無料	
■木の工作教室「木のパズルづくりに挑戦」	小学生 (中・高学年)	5/19(土) 10:00~16:00	無料	
■子ども色彩教室「カラフル・ワールド」	小学生	6/9(土) 10:00~15:00	無料	
■【岐阜大学環境講座】 「自然環境の材料を使った造形教室」	小学生	11/10(土) 10:00~16:00	無料	
■子ども版画教室 「紙版画でカレンダー」	小学生	12/15(土) 10:00~15:00	無料	
■美術教育講座	中学生、高校生、 現職教員(工芸のみ)	7/15~8/31 9:00~17:00	無料	☒ 地域科学部 058-293-3003
■戦争と平和を考える IV	市民一般 (高校生を含む)	9/15~10/6 13:00~16:15	7,200円 (学生は 6,000円)	
■工学の最前線 - 2012 -	学生、市民一般、技術者	4月~1月 時間は講座により異なる	無料	☒ 工学部 058-293-2361
■【岐阜大学環境講座】 長良川エコカフェ&長良川エコツアー 2012	一般	4月~3月 13:00~17:00	無料	☒ 応用生物科学部 058-293-2832
■応用生物科学部 中学生のための体験科学講座	中学生	10月または11月の土日 13:00~17:00	無料	
■家庭菜園の基礎 - 理論と実際 -	市民一般	4/1~2/28 10:00~12:00	10,200円	☒ 生命科学総合研究支援センター (学術国際部研究支援課) 058-293-2014
■先端科学を知ろう! (仮)	学生、一般市民	10/1~11/30 13:00~17:00	無料	
■生涯学習の今日的意義と課題(2) - 今、生涯学習に求められるもの -	生涯学習・社会教育関係職員、社会教育主事、 公民館主事等学習施設の職員、ボランティア指導者、一般住民、学生等	11/25(日) 13:00~15:30	5,200円	☒ 総合情報メディアセンター (生涯学習システム開発研究部門) 058-293-2284
■先端を行く連合創薬医療情報研究科	受験希望者、一般市民	7月上旬 午後	無料	☒ 連合創薬医療情報研究科 058-230-7602
■医療マネジメント講座	医療専門職、医療経営・ 医療政策の研究者、 本研究科受験希望者	10月~12月 10:00~15:00	無料	

「岐大のいぶき」について

「いぶき」は、滋賀・岐阜県境にある伊吹(いぶき)山と生気・活気を意味する息吹をかけて名付けられました。岐阜大学のある濃尾平野には、「伊吹おろし」と呼ばれる強い季節風が吹き込みます。これになぞらえ、本誌には、岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ感じさせたいという願いが込められています。

岐大のいぶきはWebからもご覧いただけます!

<http://www.gifu-u.ac.jp/>

■「岐大のいぶき」についてのご意見ご感想をお待ちしております。

送付先 / 岐阜大学総合企画部総務課広報係 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

TEL 058-293-2009 FAX 058-293-2021 Email kohositu@gifu-u.ac.jp